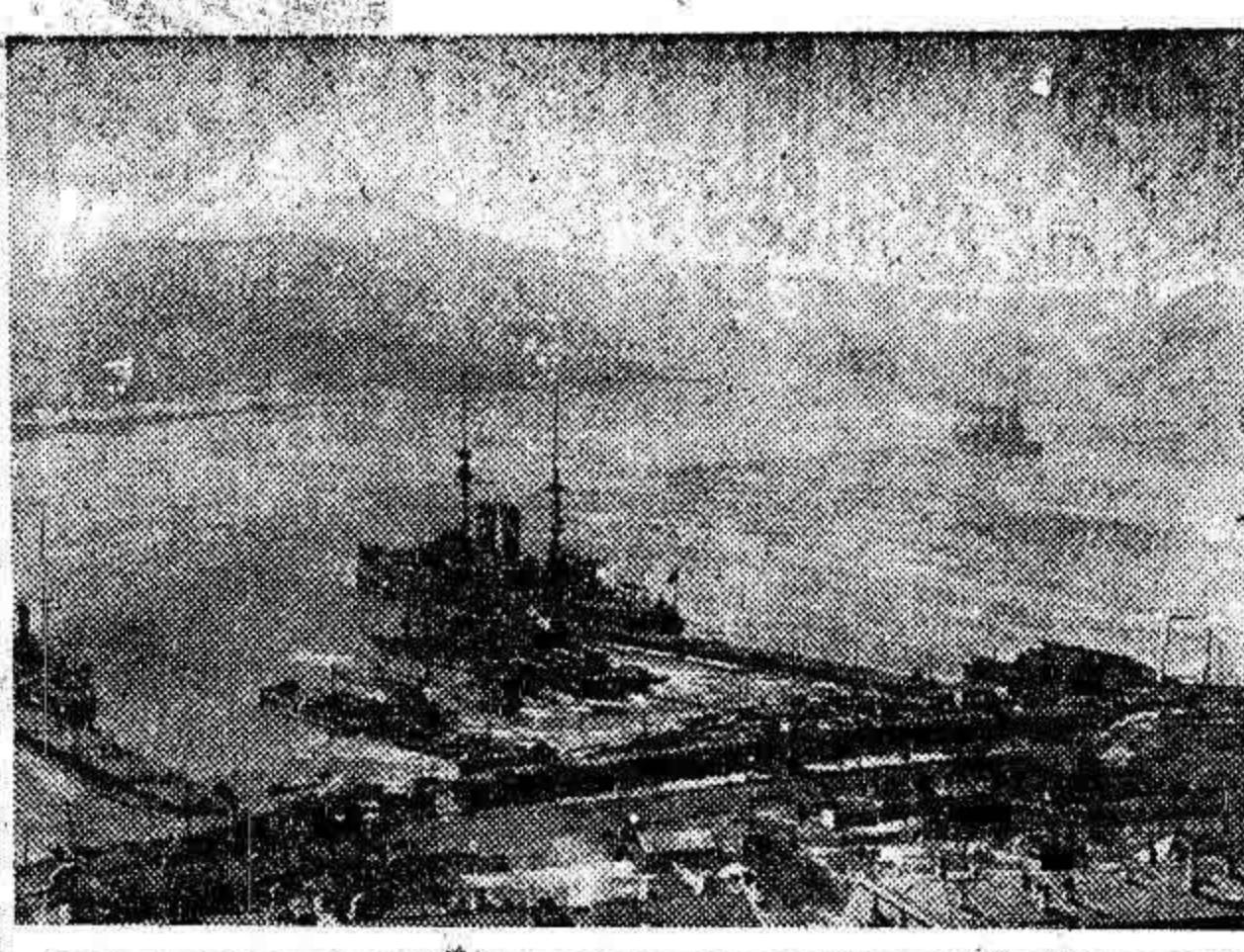


ウラジヲを根據に
『大極東艦隊』を編成

潜艦を五十二隻に増加
アムール艦隊擴大強化

本日海の脅威



【東京五日發電】駐南海軍部小林司令官は伏見軍令部長松宮殿下をはじめ奉り、中央海軍省幹部にソビエト海軍軍備の擴充に對し滿洲國共同防衛上日本海防艦の整備を邀言したが、樺東軍備に對する努力を認めつつあるソビエトが、また黑龍江沿河の一大陣營を張らんがためアムール艦隊の擴大強化を策してをり、現に同艦隊は二十

満洲國の發展は
今や第二の段階へ

ソ聯との紛争問題にならぬ
谷参事官・歸朝談

在滿清政府權に關するに、現地の意向を知らずして關田龍輔、廣田外相、林銑和らをはじめ各々獨断、重疊打合せを遂げたため、歸朝した大正大使館參事吉谷正之氏は、花柳書記官以下十名を帶同し、五年前七月十五日、五方兵艦着車時、五方兵艦大佐、外務省東亞課長、關長らの迎へを受けて入京、車中からの語り語つた。

今度の歸京の目的は二つである、第一は滿洲國現地事情を日本の各方面の人々に知つて貰ふた

文化外交網の組織充實
國際文化局と
文化事務官新設

日本紹介の會館を
世界主要都市へ設立する

國權擴張の態度に伴ひ外交上の要職として、特約政治外交上實際に對シ清は文化外交に移りつゝある状態を示してゐるが、わが國議者からは「ても政治經濟外交の前衛としての文化外交の重要性が認識され前について結果、豫定滿洲前」
二條一統經綸育下に庶務
三、支那事務官（クルチナル。
中との最も左の輩に規定）

一、文化外交間の組織者たるを新設のため外務省三課をおき、文化外交事務と稱する。文
化要求とし百二十萬圓を計
上する。その分規程定むるの通り、課長兼教育に關する事務
二條一統經綸育下に庶務
三、支那事務官（クルチナル。

アツタシエ）制度を新設し、
民間より著名な者を問はず文化選
任に連帶せる適當なる人物を遂
ぐて之を任命。大倉館所等に
地に分配應ずる。しかして明
年度は英、米、國、佛、
伊、ソビエト、アラブ、アル
ゼンチンの各代表ヲシテガギ
ョールの九ヶ所に應ずること
也。

東京に於ける日佛會館の如き
日本文化を紹介し外人に日本文
化研究の都市に與ふるべき會館
を世界主要の都府に設立し、専門
學者を派遣せしめ文化資料につ
とめしむ。しかし其間年々
は歐米兩大陸に代表ヲシテガ
ギョールニクに右等會館の設立
をなし。

日佛文化交流協會に於ける補助
金を五十萬圓に増額し文化外交

穩健な社會運動は
助長誘導する方針

内務省の新思想對策

[illegible]

國防豫算先議

新規要求は半額に
大蔵省の査定方針

大蔵省では明年豫算編成期
 而して目下しきに各省との
 豫算的折衝を進めてゐるが、
 十日の豫算算書提出期日前
 今日までのところまだ
一省も 算書書を提出
 たものなく、再三再四主計局
 がこれ提出方を催促してをる
 にあり、しかし主計局の見込
 大體十日までに各省の算書

米國大統領

列車通過の線路に

英米協定説

有力筋は可能視す

移民指導の 劃一を改む

拓務省が新方針樹立

水稻作柄は
全國的に不良

中國四國は寧ろ豊作
 作に比し五分以内減少の状態
 脱しない

細に説明した

歸朝の挨拶を述べたのちアメリカの諸事情を詳細に實例をあげて時間餘にわたり説明、午餐をとつて午後一時五十九分御殿へ

郵便貯金

七月末現在で
二億二千萬圓

岡	鳥	島	寶
山	取	根	島
七四、三二	二四、四九	四三、九四	一六、三三
四六、二〇、四六	三、四六、二〇	一七、四三、五	一六、三三

山	七、〇元	要八元、六
行	一、七三	一、四、一四
金		
其他		

[illegible]